



健康会だより

<主旨と理念>

長谷部式健康会は『自分の健康は自分の努力で』をスローガンに健康普及活動をしている会です。健康は人生最高の宝です。世界人類の健康と平和に奉仕しましょう。『体質別』は健康を守る自然の法則です。

発行所 長谷部式健康会 総本部

〒491-0905 愛知県一宮市平和1-2-13

発行人 長谷部茂人

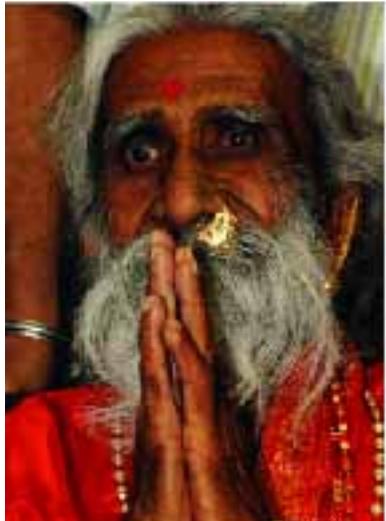
発行部数 3000部

tel 0586-46-1258

fax 0586-46-0367

E-mail kenko@world.interq.or.jp

http://www.interq.or.jp/world/kenko/



エネルギーで 生かされるいのち 物質の根源はエネルギー、しかも…。

70年前から食べ物も飲み物も摂取していないという83歳のインド人ヨギ(ヨガの聖者)のプララド・ジャニ(Prahlad Jani)さん。病院に缶詰め、医師30人によって24時間態勢で15日間にわたって観察された。全く飲食しないで異常なし。「何が起きているのか、謎のままだ」と声明を発表。実施したのは国防省傘下のインド国防研究開発機構(Defence Research and Development Organisation, DRDO)。

「食べる」は何のため？

日本人が食事から摂取しているカロリーは、一日当たり大雑把にいうと2千カロリーほどです。もちろん身体活動の多い人は、それより数百カロリーは摂取が必要です。

『不食～人は食べなくても生きられる』(三五館)という著書で有名になった山田鷹夫さん。その山田さんは主食は食べないが、食事でない食物？は若干口にされているようです(同著より)。あるいは、青汁を一日に一杯飲むだけで何年も生活している人もいるらしい。日本には超ローフード実践者(都合上食べれないのでなく、主義として食べない)が少なくとも1万人はいるといいます。

ところが、そんなものの比じゃない！というニュースが近頃ありました。インドのヨガ聖者プララド・ジャニ(Prahlad Jani)さん83歳。なんと70年前から食べ物も飲み物も摂取していないという。

そこでインドの科学者、医師たちがインド西部アーメダバードの病院にジャニさんを15日間缶詰めにして観察調査しました。観察期間中は医師30人による24時間監視体制でしたが、何事もなく終了。期間中、ジャニさんは一度も飲食せず、トイレにも行かなかった。

インドの生理学関連研究施設「DIPAS(Defence Institute of Physiology and Allied Sciences)」のディレクター、G. Ilavazahagan氏は、「実験期間中、ジャニさんが液体と接触したのはうがいと風呂の際だけだった」と声明で述べ

ました。観察期間を終えた神経学者のSudhir Shah氏は、記者団に「(ジャニさんが)どのように生き延びているのか、わからなかつた。何が起きているのか、まだ謎のままだ」と驚きを表明しました。Shah氏は「ジャニさんがエネルギーを水や食料から得ていないのであれば、周囲からエネルギーを得ているに違いない。エネルギー源が日光の可能性もある」と述べました。続けて、「医学専門家として、われわれは可能性から目を背けてはならない。カロリー以外のエネルギー源があるはずだ」と。

ジャニさんの観察調査を実施した国防省傘下のインド国防研究開発機構では、兵士たちが飲食をせずに生き延びる方法や、宇宙飛行士への応用、さらには自然災害で閉じこめられた人びとが生き延びる方法などに応用できるかもしれない期待を寄せています。



未来からやってきたネコ型ロボット。
好物：ジャイアンはカツ丼、のび太はハンバーグ、ドラえもんは…？

「小」が「大」を制す

エサ場を求めて季節ごとに数千キロを飛ぶ渡り鳥。中には南極と北極を渡る鳥もいるそうです。エサの少ない場所から多い場所へ移動するのだから、渡り期間は必要最低限のエネルギーしか使いません。小型の渡り鳥の仲間には、脂肪1グラムの燃焼で、なんと200キロメートルの飛行をする鳥もいるといいます。1円玉の重さが1グラムです。考えてみてください。私たちが1円玉を200キロメートル飛ばすだけでもどれだけ大変か。彼らはエネルギーのコントロールが極めて優れているのでしょうか。



ハイチでコレラ禍。首都ポルトープランスで、消毒剤の噴霧を受ける医療従事者。



コレラ菌の電子顕微鏡写真。大きさは $0.3 \times 2 \mu\text{m}$ 程度。湾曲したコンマ状桿菌の形態を示す。

2010年末、ハイチでコレラ騒動が起きました。ハイチ保健省によると、流行しているコレラによる死者は2千人超。コレラ患者が10万弱に達しているそうです。コレラ禍はまだ拡大を続けており、国連(UN)の保健衛生担当者はコレラで死亡した人の数は公式発表よりはるかに多いのではないかといいます。

コレラ菌はビブリオ属細菌の一種で、ロベルト・コッホが発見したことでも有名。200種類以上いる同族の中で、コレラ毒素を産生するO1型もしくはO139型のコレラ菌が、ヒトに感染してコレラを発症させます(上写真参照)。

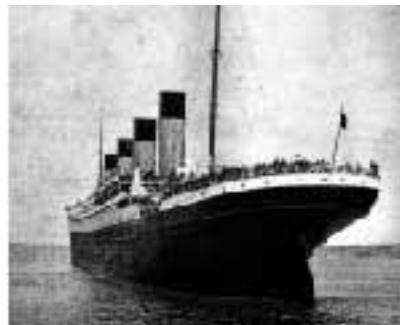
コレラ菌のサイズは $0.3 \times 2 \mu\text{m}$ 程度といいますから、とても小さい。単純に人間と比較しますと、数千兆分の1～数京分の1ぐらいになります。日本で冬に流行しやすいインフルエンザの原因是、細菌でなくウイルスです。ウイルスは細菌よりもさらに小さく、人間の数千京分の1ぐらいになるでしょうか。…(電卓で計算できないので確かなことはわかりません)

細菌やウイルスはとても小さい。その小さな生物(モノ?)が使っているエネルギーなど、話にならないぐらい小さい。彼らにとって、とてもなく大きいはずの人間を傷めることが出来るのはなぜか? エネルギー対エネルギーでは勝ち目のない相手を倒すことができるのはなぜか?

それは、エネルギー自体を武器とするのではなく、エネルギーの「流れを変える」ことが、自衛&戦術となっているからです。

「質量」に隠された謎

大西洋を横断する豪華客船が、コップ1杯の水で動くとしたら…! ? そんなことはないだろう、と思うことでしょう。ところが、コップ1杯の水に含まれる原子、そのエネルギーを完全に取り出すことが出来るとすれば、10万トン級の船が大西洋を渡りきるのに足りるエネルギーになる計算だとか。

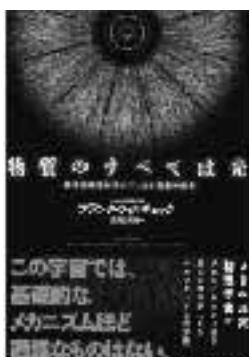


イギリスのサウサンプトン港を出航してニューヨークへ向かうはずだった豪華客船タイタニック号。

原子や素粒子には、莫大なエネルギーが隠されていた。かの物理学者アインシュタイン博士は $E=mc^2$ と言いました。Eはエネルギー、mは質量、 c^2 は光速の2乗という意味です。「エネルギーは質量に比例する」ことになります。

ところでこの式を、右辺と左辺の入れ替えしてみると、 $m=E/c^2$ というふうにも書けます。「質量はエネルギーを光速の2乗で割ったもの」という意味に書き直されました。光速の2乗(c^2)は文字通り、光の速さが確定していますから定数扱いですね。Eのエネルギーは一般的な関数としては熱量の値、あるいは1ワットの仕事率を1秒間行ったときの仕事量を示すジュール(J)になるでしょうか。熱量や仕事量というのは、「重さ」の単位ではありません。ということは、 $m=E/c^2$ から導き出される解答は、「質量(m)は重さでないものに等しい」となります。

2004年ノーベル物理学賞を受賞した天才理論物理学者フランク・ウィルチェックは、『物質のすべては光』という著書の中で、原子を取り巻く素粒子たちの世界を次のように表現しています。



マサチューセッツ大学物理学教授のフランク・ウィルチェック(下)と、彼の意味深な著書『物質のすべては光』の表紙(左)。



「ニュートンの第ゼロ法則は、常に機能するわけではない。実際、質量保存則が、ものの見事に成り立たない場合もある。ジュネーブのLEP(大型電子陽子コライダー)での実験では、電子と陽電子(電子の反粒子)を、光速の99.99999999パーセントの速度で、おのおの逆向きに回転させ衝突させた。そして衝突の残骸を調べてみた。この典型的な衝突では、 π 中間子が10個、陽子が1個、そして反陽子が1個生じる。さて衝突前後の総質量を比べるとどうなるだろうか?」

衝突前:電子+陽電子 $\leftrightarrow 2 \times 10^{-28}$ g

衝突後:パイオニア(π中間子)10個+陽子+反陽子

$\leftrightarrow 6 \times 10^{-24}$ g

出てくるものが、入ってきたものの約三万倍も重たいことになる。おやおや。手品師がシルクハットに豆を二粒入れたら、兎が2、30羽出てきたようなものだ。自然の手品は深い真実なのである。」

【訳者あとがき】磁力や重力を思い出せばわかるとおり、物体のあいだに働く力はふつう、互いに離れるほど弱くなる。ところが素粒子の世界では「離れるほど引き合う力が強くなる」。一見馬鹿げて思えるその漸進的自由性の発見は、素粒子物理学を大きく前進させることとなった。

わたしたちが思っている「重さ」や「質量」は、本当は自在な変容をするみたい。それらはエネルギーであれば、実は何でも構わないのかもしれない。ウィルチェックに言わせれば、根源的には「光」だって成立するのです。

生体エネルギーの流れを調整する代替医療

「細胞の栄養分や老廃物が非極性分子である脂質の層を通過するには、ある種の内在性タンパク質が必要。この内在性タンパク質は、分子なら何でも細胞内に透過させるというわけではなく、細胞が円滑に機能するために必要な分子だけを選択的に通す。つまり細胞膜は環境からの信号をキャッチして情報処理を行っている。もし細胞膜が知的に活動しているのだとすると、細胞膜こそ細胞の真の脳であるといえる。…遺伝子は分子でできた単なる設計図で、細胞や組織、器官をつくるときに参照される図面にすぎない。遺伝子が設計図ならば、環境は建設業者にあたる。建設業者は設計図を読みとり、必要な部分をうまく組み合わせ、責任をもって細胞を構築する。」(ブルース・リプトン著『思考のすごい力』より)

ホーム <http://biwahonpo.jp/>

これはアメリカの著名な細胞生物学者でウィスコンシン大学医学部、スタンフォード大学医学部で教鞭をとるブルース・リプトン博士が書いた原題『The Biology of Belief』の翻訳本『思考のすごい力』からの一節です。「細胞膜こそ真の脳である」。人間の体を細胞・組織レベルでみてみると、現場では環境という信号を知的に細胞膜が判断し作業しています。だから、脳は統制役者であり、遺伝子も命令者でなく設計図であり、わたしたちの身体は環境シグナル(情報)が決定しているのです。また、細胞膜での情報のやりとりを概念として図式化すると以下のようになる。(同著より)

(図1) 情報の流れ

A \rightarrow B \rightarrow C \rightarrow D \rightarrow E

ニュートン:直線的

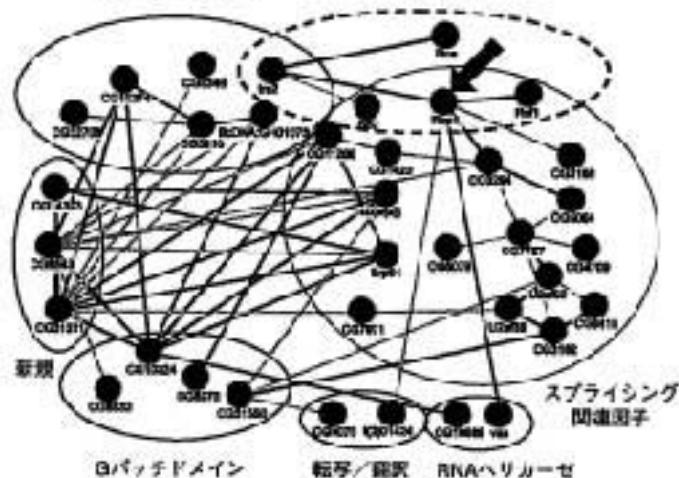


量子論:全體的

(図2)ショウジョウバエの細胞内にあるタンパク質の相互作用マップ

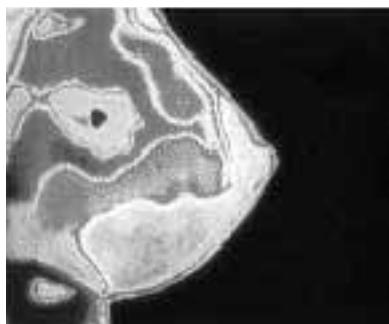
RNA結合タンパク質

核染色



代替医療についてリプトン博士はこのように語っています。「カイロプラクティックやホメオパシー療法、ラジオ治療ほか、薬を用いない治療は生体内のエネルギーの流れを調律しているようだ。」

一見、如何わしい虚言のように思えますが、実は現代医療もこれらエネルギーの流れを計測し治療にあたっています。リプトン博士があげる具体例を示してみます。



マンモグラム(乳房X線撮影像)
これは乳房の写真でないことに注意。細胞や組織に特有の放射エネルギーをスキャンして電子画像として表したもの。エネルギースペクトルの違いから、放射線科医は健康な組織と病的な組織(中央付近の黒い部分)識別することができる。

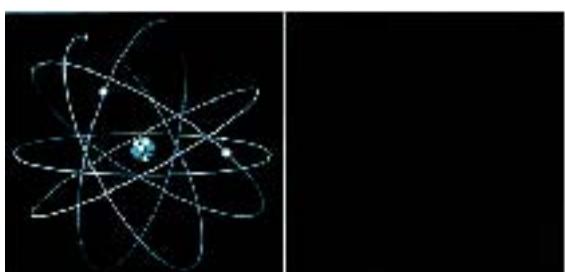
「従来型医学は、非侵襲的なスキャン技術を積極的に取り入れているが、皮肉なことにこのスキャン技術こそエネルギー場を読み取るものだ。スキャン時に特定の化学物質が発する周波数を分析する装置を用い、人間の身体組織や器官が発するエネルギースペクトルを読み取るようにしたものが医療に用いられているのである。」

現代医療もエネルギーの流れがどのようにあるかを頼りにしている。代替医療はエネルギーの流れを直感的に調整している。どんな差があるのでしょうか。

目に見えないエネルギー

そもそも、その生体に流れるエネルギーとは何だろう?一番簡単な見方をすれば、分子の中の原子エネルギーということになるでしょうか。

ところがその原子をググッと拡大し、極限状態まで近づけて見てみると、不思議なことに何も見えなくなる。下の図を見てほしい。



ニュートン力学の原子(左)と量子力学の原子(右)

右側の図は印刷ミスではありません。従来考えられてきたようなニュートン力学の原子モデルは、現実ではない。素粒子は量子論的世界であり、目に見えないエネルギーからなる実体のない物質なのです。

それでは「エネルギーが流れる」とは、どのようなものなのでしょうか。それは、熱、電気信号、磁気的な信号、時には「気」のようなものかもしれません。いずれにせよ、実体のある「重さ」ではありません。

エネルギーをコントロールする“心”

細胞膜という現場では、環境信号を読み取って自律的に作業していることを書きました。それらの信号は次にエネルギーの単位となって情報を脳に送られます。同時に、ある種のフィルターがかかる。それは“心”です。

リプトン博士はその“心”を、“魂”と呼んだりしています。心や魂はエネルギーをフィルタリングした後に、要約したかたちで脳に信号を送る。脳が信号をキャッチした後は、身体にある全細胞は脳の信号に従う。

「心頭滅却すれば、火もまた涼し」といいますね。心のフィルターは「熱くない」と判断すれば、本当に熱く感じないのでしょう。



尾道市西久保町の西国寺での、新春恒例の火渡り法要。毎年、参拝者ら100人以上が火渡りをして1年の幸せを祈願する。住職ら僧侶に続き、鉢巻姿の参拝者がはだしで燃え盛る火の上を渡って歩く。

細胞は脳の指示に従う。脳は心の指示に従う。心は細胞から上がってくる周囲の出来事や環境から情報化されたエネルギーをプールして判断する。環境や時空を埋めているものはエネルギー。エネルギーの出し入れが細胞の働きの本質である。・・・ずっとつながってぐるぐる廻っているのです。心がいつもエネルギーで満たされていれば、人は健康的なサイクルを失うことはないでしょう。もしかすると、“心”を満たすエネルギーさえ充足していれば、巻頭のヨガ聖者のように、食べなくてもOKなのかもしれません。



●申込み・問合せ先 〒491-0905 愛知県一宮市平和1-2-13 長谷部式健康会

TEL 0586-46-1258 FAX 0586-46-0367 E-mail kenko@world.interq.or.jp